

大学生との意見交換「若者と創る、未来の水戸」報告書

1 開催日時等

- (1) 日時 令和7年11月7日（金）14:00～16:40
(2) 会場 市役所7階 全員協議会室



2 参加者

- (1) 市議会議員 22名
(2) 大学教員等（ファシリテーター） 4名
ア 常磐大学 総合政策学部 教授 吉田 勉 氏
イ 茨城大学 人文社会学部 准教授 今川奈緒 氏
ウ 常磐大学 総合政策学部 准教授 高池宣彦 氏
エ 茨城大学大学院 人文社会科学研究科 修士生 木村健人 氏
(3) 大学生 24名
ア 茨城大学人文社会学部 12名
イ 常磐大学総合政策学部 12名

3 開催目的

将来の水戸を担う若い世代の意向やニーズ等を把握し、議会基本条例に必要な要素を取り入れるために実施したものである。

4 実施方法等

(1) 実施方法

学生がリラックスした雰囲気の中で発言しやすい環境するために、ワールドカフェ方式を採用した。学生と議員が混合の4つのグループに分かれ、ファシリテーターの進行により下記のテーマについて意見交換を実施した。

(2) 意見交換のテーマ

- ア テーマ①「大学生が卒業後も住み続けたくなるまちづくり」
イ テーマ②「テーマ①を実現するために市議会又は市議会議員に期待すること」



5 主な意見

(1) テーマ①「大学生が卒業後も住み続けたくなるまちづくり」

参加者である大学生の多くが日常的に公共交通機関を利用して通学していることから、生活の身近な問題点として、公共交通の利便性向上を求める意見が多く聞かれた。

また、多くが大学3年生ということもあり、卒業後の就職先や職場環境に関する意見も多かった。

(2) テーマ②「テーマ①を実現するために市議会又は市議会議員に期待すること」

テーマ①に関連する事項として、公共交通に関する課題の調査や公共交通の利便性向上につながる施策の検討を求める意見とともに、企業誘致の更なる推進を求める意見が多かった。

また、議会の活動のPRに関するミスマッチを指摘する意見も多く挙げられ、その解決策の一つとして、インスタグラムやTikTokなどのSNSを活用すべきとの提案があった。

6 議会基本条例に取り入れるべき事項

(1) Aグループ（総務環境委員会）常磐大学 吉田教授

議会は、徹底的に議論を行う熟議の場であり、その熟議を深めていくことが重要である。今回の意見交換会はまさに小さな議会のようなものであったと思う。

学生から、市民の悩みを共有したり相談できる場をつくってはどうかという意見があり、市民の声を議員が積極的に取り入れるための取組が必要と感じた。また、議会は、対執行機関又は議員間で熟議を行っていることと思うが、市民や学生とともに十分な政策を練り上げるための議論の場を積極的に設けていくことも大切である。こうした規定を条例に入れていただけるよう、ぜひ検討していただきたい。



(2) Bグループ（文教福祉委員会）茨城大学 今川准教授

条例には、水戸市ならではの対話の場というものを入れていただければと考えている。

今回の意見交換会では、行政という枠組みだけではなく、水戸市の魅力、例えば人柄、歴史、暮らしやすさなど、水戸ならではの価値をつくり上げていくのが大事という意見があった。そういう価値をどのように議会で取り入れていくのかということを考えると、やはり大事なのは対話の場であり、対話の場を保障するような仕組みを、水戸市型対話というような形で入れていただくと、すごく面白い条例になると思うので検討していただきたい。



(3) Cグループ（産業消防委員会）茨城大学大学院 木村氏

Cグループでは、学生の感覚と議員の取組のギャップについて、大きく2つの意見が出された。

まず、企業誘致について、市が誘致したい企業と学生が勤めたい企業が異なること、次に、情報発信について、市が発信している情報媒体と受け手である学生の利用媒体が違うことについて意見があった。

これらを踏まえ、ニーズに合わせた情報発信の手法について、市が的確に把握し、配信に努めることを条例に取り入れてはどうかと考える。



(4) Dグループ（建設企業委員会）常磐大学 高池准教授

議員の皆様と学生たちが率直に意見を交わせる貴重な機会を設けていただき、教育的にも大変意義深いものとなったと感じている。学生たちにとって、自分たちの意見が実際の市政運営に生かされる可能性があるという実感は、何よりの学びとなったのではないだろうか。次回は是非大学に足を運んでいただき、生の学生の声を聴いていただく機会を設けていただければと考えている。



今後も、地域と大学が連携しながら、若い世代が水戸に魅力を感じ、定着できるまちづくりに微力ながら貢献できればと考えている。

6 ファシリテーターの講評

(1) 常磐大学 吉田教授

学生との意見交換会は、全国の議会でやりたいと声があるものの、なかなか実現できていない状況にあり、今回の取組は全国に先駆けとなるモデルケースになったのではないか。私自身、全国各地の議会での講演を予定しているので、講演の中でぜひ水戸市の取組を紹介していきたいと考えている。

学生にとっても非常に有意義で充実した機会になったと感じている。学生に代わって感謝を申し上げる。

(2) 茨城大学 今川准教授

全国初の栗山村議会基本条例の制定から20年が経ち、多様性の尊重が求められる今の社会状況においては、対話の場が非常に重要となる。

京都賞を受賞したキャロル・ギリガンが提唱する「ケアの倫理」は、様々な立場の人の声が響き合って共鳴し、答えを出していくことが民主的なプロセスにおいて重要と説いている。その実現において、前線に立つのが議会であり、市民の声を反響させることは、今後の条例や議会の在り方を考える上で非常に重要である。水戸市型という形で、対話の場の保障を条例に組み込んでいただければ幸いである。

今回の意見交換会はまさにそのキックオフの機会であり、学生を参加させていただいたことに心からお礼申し上げる。

Aグループ（総務環境委員会）の意見の概要

1 「大学生が卒業後も住み続けたくなるまちづくり」（テーマ①）

(1) 住環境

ア 公共交通

- ・ 電車と路線バスで快適に移動できるまち（夜間の運行本数充実、郊外部の移動手段整備）



イ 自転車

- ・ 自転車で快適に移動できるまち（電動アシスト付自転車の充実、自転車の安全対策）

ウ 商業施設

- ・ 買い物できる場所が多いまち（商業施設の充実、まちのにぎわい）

(2) 職場・就職

ア 職場環境

- ・ 好待遇の職場があるまち（やりがいよりも金銭面での待遇を重視、良質な雇用）
- ・ 多様な仕事の選択肢があるまち

イ 学生等への支援

- ・ スキルアップできる職場があるまち（インターンの受入れ、資格取得に係る支援）
- ・ 若者がチャレンジできるまち（社会人生活スタートに係る支援）

(3) 子育て環境

- ・ 安心して子育てができるまち（子育て支援の充実）

(4) 芸術・文化・スポーツ等

- ・ 大きなライブ会場があるまち
- ・ 歴史と自然が融合したまち、歴史と暮らせるまち
- ・ スポーツが推せるまち

2 テーマ①を実現するために市議会又は市議会議員に期待すること（テーマ②）

(1) 公共交通

- ・ 住民の声を反映した交通課題の調査の実施

(2) 職場環境の充実

- ・ 企業誘致の推進
- ・ 地域と連携したインターンシップの促進

(3) 情報発信

- ・ 議会及び議員から市民に向けた情報発信の強化
- ・ SNSを活用した議会活動の広報を強化し、双方の交流につなげる。



Bグループ（文教福祉委員会）の意見の概要

1 「大学生が卒業後も住み続けたくなるまちづくり」（テーマ①）

(1) 住環境

ア 公共交通

- ・ 公共交通で安心して移動できるまち（夜間の運行、分かりやすさ、バリアフリー）

イ 自転車

- ・ 自転車で移動しやすいまち（自転車通行空間の整備）

ウ 商業施設

- ・ 買い物がしやすいまち（商業施設の充実）

(2) 職場

- ・ 魅力的な職場、挑戦できる職場があるまち
- ・ サテライトオフィスが多いまち（リモートワークの環境）

(3) 子育て環境

- ・ 子育てしやすいまち

(4) 芸術・文化・スポーツ等

- ・ アリーナ等の集客施設があるまち
- ・ プロスポーツが盛んで、チームがまちのシンボルになっているまち

(5) その他

- ・ 娯楽が多いまち
- ・ 趣味につながる地域活動が盛んなまち
- ・ 公園でリフレッシュできるまち
- ・ 市民の声が行政に届きやすいまち



2 テーマ①を実現するために市議会又は市議会議員に期待すること（テーマ②）

(1) 公共交通

- ・ 公共交通機関の利便性向上
- ・ 新幹線の水戸駅乗り入れ
- ・ 自転車専用レーン、サイクリングロードの整備

(2) 職場環境の充実

- ・ 企業誘致の推進、多様な職種の雇用環境整備
- ・ インターンシップの充実
- ・ 男性が育児休暇を取得しやすい環境づくり

(3) 情報発信

- ・ 議会と市民の意見交換の場の設置
- ・ SNSを活用した議会活動の広報を強化



Cグループ（産業消防委員会）の意見の概要

1 「大学生が卒業後も住み続けたくなるまちづくり」（テーマ①）

（1）住環境

ア 居住

- ・ 住みやすいまち（居住地の魅力向上、地域医療の充実、地域コミュニティの充実）
- ・ 戸建てを持ちやすいまち（移住特典など）



イ 治安

- ・ 治安の良い安心して暮らせるまち（夜間の騒音対策の推進）

ウ 公共交通

- ・ 公共交通が便利なまち（路線バスの本数増加及びルート改善）

エ 自転車

- ・ 自転車で移動しやすいまち（みとちやりのステーション増設）

オ 商業施設

- ・ 買い物がしやすいまち（商業施設の充実、電子決済の充実、地域仮想通貨等の充実）

（2）職場

- ・ 多様な就職先、魅力的な企業あるまち（スキルアップできる企業）
- ・ 働きやすい企業があるまち
- ・ サテライトオフィスが多いまち（リモートワークの環境）

（3）子育て環境

- ・ 安心して子育てできるまち（子育て支援の充実）

（4）芸術・文化・スポーツ等

- ・ 音楽フェスを開催するまち（音楽フェスの誘致）
- ・ プロスポーツがシンボルになるまち（水戸ホーリーホック及び茨城ロボッツの支援）

2 テーマ①を実現するために市議会又は市議会議員に期待すること（テーマ②）

（1）公共交通

- ・ 公共交通利用者へのインセンティブ付与等の利用促進策の検討
- ・ 各学校区ごとに運行可能な公共交通機関の導入



（2）職場環境の充実

- ・ 水戸市独自の優良企業認定制度の創設
- ・ 企業誘致の更なる推進

（3）情報発信等

- ・ 市民との意見交換の場の創設

Dグループ（建設企業委員会）の意見の概要

1 「大学生が卒業後も住み続けたくなるまちづくり」（テーマ①）

（1）住環境

ア 居住

- ・ 戸建てを持ちやすいまち
- ・ お得に暮らせるまち（物価対策の充実）

イ 治安

- ・ 治安の良い、清潔なまち（外国人の騒音対策、ごみ問題）

ウ 公共交通

- ・ 公共交通が便利なまち（まちなかへのアクセス向上）

エ 自転車

- ・ 自転車で移動しやすいまち（安全対策の推進）

（2）職場

- ・ 好待遇の職場があるまち

（3）子育て環境

- ・ 子どもにやさしいまち（子育て支援の充実）
- ・ 子育てに不安のある人がつながれるコミュニティがあるまち

（4）芸術・文化・スポーツ等

- ・ 大きなライブ会場があるまち
- ・ 歴史と暮らせるまち（水戸城跡、弘道館）
- ・ プロスポーツを推せるまち

（5）その他

- ・ きれいな公園でリフレッシュできるまち
- ・ 娯楽施設のあるまち
- ・ 魅力的な中心市街地があるまち



2 テーマ①を実現するために市議会又は市議会議員に期待すること（テーマ②）

（1）公共交通

- ・ 公共交通網の整備（バス路線及びダイヤの見直しの検討、みとちやりの充実）

（2）移住定住支援

- ・ 水戸市内の大学生が市内に就職した場合の優遇措置等の検討

（3）情報発信等

- ・ SNSの活用による議会活動の情報発信
- ・ 市政に意見しやすい仕組みづくりの検討



意見交換の流れ（概要）

【開会・議長挨拶】

議会事務局長の進行の下、意見交換を開会した。

冒頭、松本勝久議長が、議会代表として挨拶を行った。



【9月定例会の報告・議会改革の取組紹介】

綿引健副議長が、水戸市議会の現状と9月定例会報告（議決した議案等）、これまでの議会改革の取組紹介等を行った。

【事前説明】

茨城大学の学生が、意見交換の目的やテーマ、ルール等について説明を行った。



【意見交換】

各自で席札を作成し、グループ内で自己紹介（名前、水戸と関わって〇年、水戸市内の好きなお店）を行った後、テーマ①・②について意見交換を行った。意見交換は3回に分けて行い、2回目は学生が別グループに移動し、3回目は元に戻る方式とした。



【意見発表】

各グループの代表者（学生）が、意見交換で出された意見等を発表した。発表後は発表補助者である議員が、補足事項等について適宜発表を行った。



【議会基本条例に取り入れるべき事項（各ファシリテーター）】

各グループのファシリテーターが、グループ内で出された意見のうち議会基本条例に取り入れるべき事項等を紹介した。



【講評（ファシリテーター代表）】

ファシリテーターを代表して常磐大学の吉田教授、茨城大学の今川准教授から、それぞれ今回の意見交換についての講評をいただいた。



【議会代表挨拶（佐藤議会改革調査特別委員会副委員長）・閉会】

議会改革調査特別委員会副委員長である佐藤昭雄議員が、議会代表として挨拶し、意見交換は閉会した。



意見交換に係る大学生アンケート 集計結果

【回答数】 15

Q 1 これまで、市議会議員と話をしたことがありますか。

選択肢	回答	回答比率
話したことがある	4	26.7%
今回初めて話した	11	73.3%

Q 2 意見交換の会場の雰囲気はいかがでしたか。

選択肢	回答	回答比率
とてもよかったです	10	66.7%
よかったです	5	33.3%
どちらとも言えない	0	0%
悪かったです	0	0%
とても悪かったです	0	0%

Q 3 意見交換における議員との話し合いは、いかがでしたか。

選択肢	回答	回答比率
とてもよかったです	11	73.3%
よかったです	4	26.7%
どちらとも言えない	0	0%
悪かったです	0	0%
とても悪かったです	0	0%

Q 4 意見交換の場で自分の意見を話すことができましたか。

選択肢	回答	回答比率
十分に話すことができた	8	53.3%
話すことができた	7	46.7%
どちらとも言えない	0	0%
あまり話すことができなかつた	0	0%
全く話せなかつた	0	0%

Q 5 今回の意見交換を通じて、議会や議員に対する印象は変わりましたか。

選択肢	回答	回答比率
変わった※	13	86.7%
変わらなかつた	2	13.3%

※全て「よい印象」に変わったという内容。Q 7 参照。

Q 6 次回もこのような機会があれば参加したいと思いますか。

選択肢	回答	回答比率
思う	14	93.3%
思わない	0	0%
分からぬ	1	6.7%

Q 7 その他、御意見や御感想等があれば御記入ください。

- ・ 水戸市のために御尽力してくださっている方々からの貴重なお話を聞けて私自身成長できたと思う。一つ課題があるとすれば、もっと時間にゆとりがあつてもよいのではないかと思った。私もこれから水戸のためにできることを行っていこうと思う。
- ・ さまざまな意見を聞き学びを深めることができた。貴重な機会に参加できて有意義な時間を過ごすことができた。
- ・ 市議会議員の方や他大学の方と交流することで、様々な意見を聞くことができた。また、職員の方も気さくにコミュニケーションを取っていただき、とても有意義な時間になった。

(Q 5の意見)

- ・ 私たちのような学生の意見にも耳を傾けてくださる姿勢、また議員さんそれぞれのもつ強い意見、非常に市民想いな人たちの集まりなんだという印象が強くなった。
- ・ 堅いイメージがあったが、とても柔軟で気さくな方が多いと思った。
- ・ ニュースや様々なメディアにより、今まで議員の方にあまり良い印象を抱いていなかつた。しかし、今回お話をさせていただいて真剣な態度で生徒の話を聞いてくださってとても良い印象へと変化した。
- ・ 固い印象だったが、とてもフレンドリーで話しやすかった。
- ・ 議員とはいっても一市民であり、私たちと考えていることが似ていたり学生の意見を上手く取り入れようとしてくださるなど好印象であった。
- ・ 国会議員のようにバチバチしてるかと思っていたが、仲が良さそうに見えて意外だった。
- ・ 議会はもっと厳肅とした場所だと思っていたが、実際にはリラックスした雰囲気で討論できる機会も設けられており、より市民に身近に感じてもらえるように議会改革がなされているという印象を受けた。
- ・ とても優しく丁寧な説明で、温かい雰囲気の方が多かった。
- ・ 「議員」と聞くと、テレビで見ているようなゴシップであつたり、逆に堅苦しいようなイメージであったが、我々の意見に真摯に耳を傾けてくださった方が多く、良い印象になった。
- ・ 柔らかい印象に変わった。
- ・ 特に悪いイメージなどはなかったが、積極的に意見を取り入れてくれそうな良い雰囲気を議員さん達から感じることができた。
- ・ よく学生の意見を聞いていただき、水戸市の現状などを踏まえて勉強になる話をたくさん聞くことができた。
- ・ 議会や議員さんへのお堅いイメージが変わった。